

三遠南信地域交流たずねある記(1) 南信州地域にみる三遠

NHK大河ドラマ「おんな城主直虎」が終わって

嶋田屋麴店 店主 井伊徳広 氏

三遠南信地域での相互交流の現場、またはその痕跡を訪ね歩く新シリーズ。

第1回は南信州地域から、NHK大河ドラマが大きな変化もたらしたと語る飯田市嶋田屋麴店の井伊徳広氏にお話をうかがった。

ー飯田井伊家について教えてください

飯田井伊家は松源寺(高森町)に逃れた井伊直親(亀之丞)と嶋田村(現松尾)代官塩沢氏の娘との間に生まれた吉直を祖とし、5代目の吉右衛門が飯田町に移って井伊を名乗り、麴屋を始めた。当家は明治10年にその本家から分家して麴屋の商売を引き継ぎ今に至っている(次頁系図)。ドラマでも取り上げられた直親より拝領の短刀は本家が所有している。松尾の塩沢家が現在のどの家にあたるのかは、今回聞いて回ったが未だに判明していないようだ。

麴屋はかつて最盛期に同業組合加盟の業者が35~36軒くらいあったと聞いているが、現在は飯田市に3軒となっている。



嶋田屋麴店 全景 (飯田市本町4丁目大横)

ー大河ドラマが始まるまでは

若い頃は我が家がそのような系譜の家とは知らなかった。父や祖父からは聞いていなかった。ただ、同じく本町4丁目大横在住の原彰一先生(注1)から「君の家は特別な家だから」と言われ、飯田井伊家関係の系図をまとめてくれていた。平成13年5月に龍潭寺で執り行われた井伊直政公400回忌法要には、飯田井伊家からということで私が招かれた。その際に松田不秋(注2)・木村昌之(注3)両先生との出会いがあり、お付き合いが続いている。

放送年の前年(平成28年)の夏頃、飯田市観光課からNHK大河ドラマに取り上げられるという連絡を受けた。これまで歴史研究の先生方くらいしか承知していなかった(注4)飯田井伊家がそれから間もなく知れ渡るようになった。

ー大河ドラマが始まったらどうなりましたか

大型バスが店の前の道路に横付けされて大勢が訪れ、私が「俄かガイド」となって説明と対応に当たるなど生活が一変した。期間中大型バスが20台くらい、他に個人・グループの訪問もあった。ツアーコースには松源寺と当店、それに峯高寺(注5)が含まれた。大勢のツアーのときはグループを半分に分け、当店と峯高寺とで入れ替えて案内するようにした。

当店は午前中に麴の仕込みを行うので「対応は昼頃から午後にして欲しい」と旅行会社に申し入れてあり、午前中松源寺に立ち寄って昼以降にこちらに来るというパターンであり、殆どが日帰りだった。天気の良い日には店の前にテーブルを出し、甘酒などのサービスをした。

ツアーの歴史探訪との組み合わせでは、春はさくらんぼ狩りが多かったのが印象にある。また市内の桜巡りもあった。秋は紅葉やりんご狩りとの組み合わせだった。夏場は適当なものがないせいか、ツアー訪問がパタッと止まった。

《ドラマ放映中の入込み状況》

高森町産業課のまとめによると、松源寺では平成28年11月から30年1月までの間、ガイドまたは観光バス駐車場のいずれか利用があった件数（産業課経由）は1,203件。高森町では「バス乗車状況からバス・団体客で4.2万人、他の個人客が3千人以上」（観光課）と発表している。南信州観光公社では「12団体約320名を案内」（同社）とのことである。

—お店に来た方たちはどのような方ですか

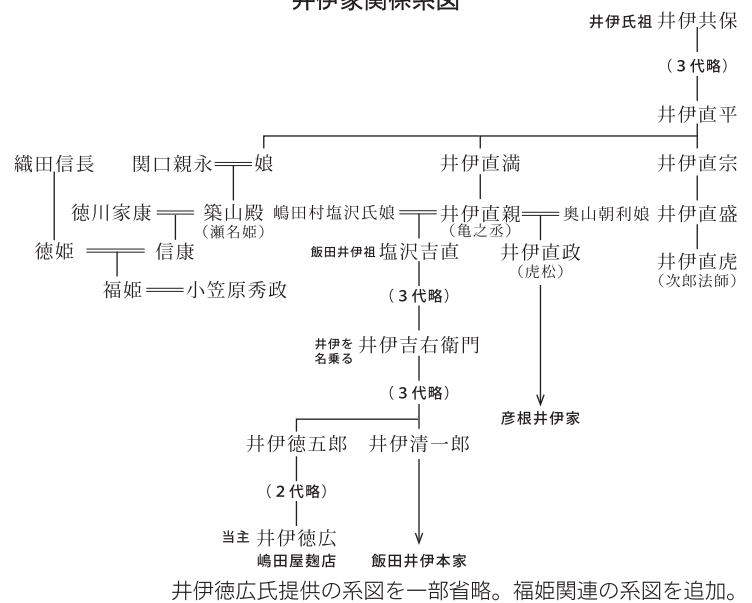
県外では圧倒的に浜松地域（遠州）が多かった。浜松市の旅行会社がツアーを組んだためと思う。東三河地域からは殆どなかった。また、名古屋駅集合のツアー募集も行われ3回来た。これには名古屋（尾張）方面のほか関西方面からの方も居たようだ。泊まりのツアーが少ないのは浜松地域が日帰りツアーに手頃な距離にあるためといえる。三遠南信道が全通していれば、もっと来ていたと思う。県内では上伊那、諏訪地区、松本辺りからで、北信・東信からは少なかった。

面白いと感じたのは、地域によって人柄や雰囲気が違うこと。名古屋方面の人はどんどん入り込んできて土産をどかっと買ってさっさと出て行くという感じ。浜松地域からの人はこちらの話にじっと耳を傾け熟考しているという雰囲気だった。ある意味南信州の人々と似通ったところがあると感じた。



ご当主の井伊徳広氏

井伊家関係系図



井伊徳広氏提供の系図を一部省略。福姫関連の系図を追加。

— 1年を振り返ってどうでしたか

大河ドラマを機に、飯田井伊家の関係者が龍潭寺を訪問し、この間浜松地域に知人・友人ができた。松源寺はそれまで飯田井伊家をご存じないようであったが、放送期間中は来訪者対応に連携して当たった。彦根市からは彦根市立彦根博物館の学芸員ら3名の来訪を受けた。名古屋テレビの取材が入り、SKE 48の人ほかを店に迎えたこと（注6）も普通では起きないことだった。

大河ドラマが当家や関係する方々の歴史を掘り起こし、浜松地域など各方面との繋がりをつくり、広げてくれた。

- 注1 飯田市の郷土史家（1922－2010）。飯田市誌編さん室助言者・執筆員、飯田市美術博物館評議員・美術品等購入専門委員などを歴任。
- 注2 飯田市の生まれ。細江町職員退職後エッセイストとして執筆の傍ら三遠山岳研究会を結成し地域研究に取り組む。三遠南信交流会コーディネーターなど多方面に活躍。遠州信濃会理事、平成15年飯田市遠州地域ふるさと大使に就任されるなど信州と遠州の橋渡しを務められている。
- 注3 高森町の郷土史家。高森町文化財調査委員長、同文化財審議委員など歴任。著書に「歴史の風 中世地方国人の動向 信州松岡氏と遠州井伊氏」など。
- 注4 村沢武夫著「飯田井伊家（飯田由緒旧家伝・上）」（昭和52年）など。
- 注5 飯田城主小笠原秀政の正室福姫が菩提寺である峯高寺に葬られている。福姫の父は徳川家康の子信康、信康の母親は築山殿、築山殿の母親が直親の叔母で、直親と築山殿はいとことなり、福姫は井伊家の血筋になる（上記系図参照）。〔南信州飯田観光ガイド2017〕南信州新聞社より
- 注6 平成29年1月9日放映（長野朝日放送でもネット）『三遠南信で発見！手つかずの絶景と直虎ゆかりの地』出演：SKE 48 鎌田菜月、中本賢、金子貴俊、篠山貴信、の番組。（メーテレHPより）

（飯田信用金庫 地域サポート部 リニア対策課 加藤 修平）